

## アドバンス・ケア・プランニングの道しるべ～シームレスな支援を目指して～

大阪はびきの医療センター 慢性疾患看護専門看護師

竹川幸恵

アドバンス・ケア・プランニング（以下、ACP）とは、患者様・ご家族・医療者が対話を通じて患者様の価値観を明らかにし、これからの治療・ケアの目標を明確にするプロセスであり、人生に意味を見出し充実した生活すなわち well-being を送るための支援として重要である。

しかし、「ACP は開始のタイミングや具体的な介入方法がわからない」「終末期に関する話をする事で患者様が希望を失うのではないか不安がある」などの理由で、積極的に実践されているとはいいがたく、シームレスな支援も不十分な現状である。

では、私たちは、ACP を促進するためにはどのようにすればよいのだろうか。まず、ACP は、患者様の人生の最終段階に焦点をあて医療やケアの事前指示を得ることではなく、対話により患者様が価値観に気づき、病いとともにもどのように生きていきたいのか言語化し well-being を支える貴重な営みであると認識することが重要である。

次に、ACP の介入方法を理解することである。医師は、今後病気がどのように進行し、どのような治療が必要か、患者様に的確に伝える。看護師は、患者様を生活者として捉え、患者様の大切にしていること、生きがいなど価値観や望む生き方を対話で導き出す。これは、看護師はすでに実践しているにもかかわらず、「ACP」という言葉で難しいと錯覚している。当センターでは、介入のプロセスと対話の方法をわかりやすく示している「患者との話し合いの手引き（Serious illness Conversation Guide : SICG）」を参考にして ACP 支援を推奨しており、看護師の ACP に対する困難感は軽減し ACP 介入は増加している。

本シンポジウムでは、当センターで活用している SICG や、発展途上ではあるがシームレスな支援の工夫について症例を交えながらご紹介する。ACP への理解が深まり、ACP のシームレスな実践へと繋がれたら幸いである。